

# 目黒寄生虫館月報

昭和34年9月10日発行・毎月1回10日発行

第7号

昭和34年9月

## 内 容

線虫類 (小林晴治郎) .....	1
江口季雄教授来館 .....	1
原稿5篇完成 .....	1
NET「暮しの医学」で放送 .....	1
NET天神島ロケに参加 .....	1
濠洲, 香港より来信 .....	1
尾崎佳正博士より寄贈をうく .....	1
寄贈をうけた標本 .....	1
ON SOME ACANTHOCEPHALA (1) .....	2
毒蛾の発生と毒蛾症患者の来診 .....	2
目黒寄生虫館建設記録 (5) .....	3
バラサイト「ボチは狙われている」 .....	3

### 江口季雄教授来館

8月24日岐阜大学江口季雄教授が来館され、かねて執筆を依頼してあった原稿についていろいろご意見を承った。

### 原稿5篇完成

九州大学宮崎一郎教授から肺吸虫に関する1篇、岐阜大学森下哲夫教授から線虫に関する4篇が完成到着した。第1巻出版が急がれている折から感謝にたえない。

### NET「暮しの医学」で放送

9月2日日本教育テレビ「暮しの医学」で「寄生虫のいたづら」と題して亀谷は20分間対談放送。

### NET天神島ロケに参加

8月3日酒井恒博士指導の日本教育テレビ「潮だまりの生物」ロケが天神島で行われ、本館より木原他2名が参加した。

### 濠洲、香港より来信

かねて標本採集を依頼してあった山田清三氏は西濠より、木本氏は香港よりそれぞれ中間報告をよせられた。

### 尾崎佳正博士より寄贈をうく

尾崎佳正博士から別記の通り歴史的標本4点を寄贈された。

### 寄贈をうけた標本

尾崎佳正博士	Schistosoma Japomicum 他3点
酒井 恒博士	Cryptodromia areolata の線虫
小倉 暁雄氏	Thlaspidia lewisii 他3種の昆虫に寄生せるダニ
	Microleon longipalpis
	Artona funeralis
帆足 延夫氏	フィリピンのみササビ (Syphacia sp.を採集)

(学名)

東京医科歯科大学 Haematomyzus elephantis ♂ ♀

### 生物学同好会

8月は休講

## 8月の短信

- 1日——江の島水族館学芸員福井洗一氏来館
- 2日——東京医科歯科大訪問 (鈴木)
- 4日——東大農学部水産学科末広教授を訪問 (木原)
- 7日——中野一中生徒男女及び父兄46名池本宏先生引率来館
- 8日——横浜市大医学部教授石井信太郎博士を自邸に訪問教えを乞うた (木原)
- 15日——小田原水産生物学研究所訪問 (木原)

ON SOME ACANTHOCEPHALA  
FOUND IN MARINE FISHES (1)

Midori Kihara

Introduction:

In Japan, acanthocephala were studied by I. Harada, S. Yamaguti, T. Fukui, T. Fujita and others. But as I think there are some spaces to study furthermore, I started to research under Dr. T. Fukui's guidance. It was so difficult for me to get fresh fishes, but examined about 116 samples of the following 28 kinds of marine fishes and I could obtain 4 species of acanthocephalans, some nemas flukes, trematodes and Cestodes. Of these parasites only acanthocephalans are considered in this paper.

Date: April, 1957—March, 1958

Examined fishes

- 1) *Hyporhamphus sajori* (TEMMINCK et SCHLEGEL) サヨリ
- 2) *Katsuwonus vagans* (LESSON) カツオ
- 3) *Hexagrammos otakii* (JORDAN et STARKS) アイナメ
- 4) *Scomber japonicus* (HOULTUYN) ホンサバ
- 5) *Lateolabrax japonicus* (TEMMINCK et SCHLEGEL) スズキ
- 6) *Spheroides niphobles* (JORDAN et SNYDER) クサフグ
- 7) *Monacanthus cirrhifer* (TEMMINCK et SCHLEGEL) コウハギ
- 8) *Sebastes* sp. メバル
- 9) *Inimicus japonicus* (CUVIER et VALENCIENNES) オオコゼ
- 10) *Pleuronichthys* (TEMMINCK et SCHLEGEL) メイタガレイ
- 11) *Sebastes marmoratus* (CUVIER et VALENCIENNES) カサゴ
- 12) *Muraenesox cinereus* (FORSKÅL) ハモ
- 13) *Anguilla japonica* (TEMMINCK et SCHLEGEL) ウナギ
- 14) *Psenopsis anomala* (TEMMINCK et SCHLEGEL) イボダイ
- 15) *Chelidonichthys kumu* (LESSON et GARNOT) ホウボウ
- 16) *Pterogobius elapoides daimio* (JORDAN et SNYDER) キヌバリ
- 17) *Halichoeres poecilopterus* (TEMMINCK et SCHLEGEL) キュウセン
- 18) *Parapercis pulchella* (TEMMINCK et SCHLEGEL) トラギス
- 19) *Acanthogobius flavimanus* (TEMMINCK et SCHLEGEL) マハゼ

- 20) *Conger japonicus* (BLEEKER) クロアナゴ
- 21) *Platycephalus indicus* (LINNÉ) コチ
- 22) *Etrumeus micropus* (TEMMINCK et SCHLEGEL) ウルメイワシ
- 23) *Trachurus japonicus* (TEMMINCK et SCHLEGEL) マアジ
- 24) *Seriola quinqueradiata* (TEMMINCK et SCHLEGEL) ブリ
- 25) *Sillago sihama* (FORSKÅL) マギス
- 26) *Cololabis saira* (BREVOORT) サンマ
- 27) *Konosirus punctatus* (TEMMINCK et SCHLEGEL) コノシロ
- 28) *Paralichthys olivaceus* (TEMMINCK et SCHLEGEL) ヒラメ

Method: The acanthocephalan materials are at first placed in fresh water until the proboscis is everted and when it is not drawn pulled out with a needle. They are then fixed with 70 per cent alcohol, stained with Delafield's h. and mounted in balsam. These acanthocephala were all obtained in the small intestine of fishes.

毒蛾の発生と毒蛾症患者の来診

	亀谷	了	
	実験室内の発生	家屋内に飛来	毒蛾症患者来
	××		
	××		
5-	××		
10-		×	△
15-	∴		△△△△△
20-	∴		△△△
25-	∴	×	
30-		∴ ○	
8月 1-		∴	
5-		∴	△△△
10-		∴	△
15-		∴	
20-			
25-		○	
30-		○	×(チャドクガ)
9月 1-		○	・(ドクガ)
		○	○(モンシロドクガ)

森にかこまれた著者の家には毎夜の如く毒蛾が飛来する。これを全部つかまえて標本にしたら7, 8月で17匹となった。その内訳は, チャドクガ2, ドクガ11モンシロドクガ4である。

実験室で飼育中のチャドクガが発生したのは7月1日頃である。そして8日に1匹部屋に飛込んだ。すると8日に5名, 7日に1名患者が来診した。

7月13日から数日間ドクガが実験室内で発生した。28日から毎夜の様に部屋に飛込んできた。すると8月2日に患者が3名来診した。先きの患者はチャドクガによるもので, 後のはドクガによるものだろう。

モンシロドクガは8月の末に少し飛込んで来たが患者はまだ出ない。

### 目黒寄生虫館建設記録(5)

29年9月21日 阪大の森下薫教授は白髪の温顔をほころばせて来館された。しかも, *Tunga coecigena*, *Diplogonoporus grandis* 等珍しい標本数点をたづさえて, 私達は心より喜んでお迎えしたのであった。教授は, このような施設は是非一つほしいと思っていた所だからしっかりやり給えと激励された。そして, London の Welcome Medical Museum の話をくわしくされ, パネルはこうして, 糸虫吸血の生活史も入れること, アルバムによる説明も必要だ。画は, 写真はこうしたがよい等と細い所まで注意をされた。私達は, これらを忠実に実行してきたつもりである。私はこの時, どうしても本格的な建築をして, この期待

に応えようと心中深く決するところがあつた。これこそ生甲斐のある人世と考へたのである。

10月8日都立小石川高校の文化祭に資料を提供した。

10月19日 阪大の弟金子志郎君からわざわざ電話がかかつた。何かと思つてきくと, 森下教授が今後大い協力するからと改めて激励されたことを伝えて呉れたのであつた。改築の腹案はほぼ出来てはいたが, 何といつても資金がない。

10月14日, 日展の彫刻家後藤良生先が肺気腫の苦しの中を来館された。

10月23日, 科学博物館で東大富井教授の「海外博物館を廻りて」と題する講演を聞いた。これは大変有益であつた。

10月24日から約20日間は毎日ワトリの解剖をした前後70羽余から多数の標本を採集した。

10月31日, 長崎大学薬学部よりクラムヨモギ, アメリカアリタソウの種子を寄贈された。これは後でいくらか蒔いても遂に発芽しなかつた。

同日信大坂部君から椋鳥住血吸虫の資料の寄贈をうけた。

12月2日, 科学博物館で工大星野教授の「欧米の博物館を訪ねて」と題する講演を聞いた。これも大いに参考になつた。

12月31日, 標本は135点となつたのでリストを作つて各方面にお配りし, 協力をお願いしたのであつた。

(亀谷)

東京で調査した犬糸状虫寄生状況によると, 3夏を過ぎた犬では驚くなかれ92%が感染していると報告しています。犬糸状虫症が嵩じると肝硬変, 腹水ひどい栄養障碍などを起して死にいたりします。しかし早期治療を行えば比較的簡単に駆除できるので東京農工大学獣医学科教授久米清治博士, 大石勇氏のご援助により, 犬糸状虫症にメスを入れました。

#### 特別展示・第4回

### 9・10月『ポチは狙われている』

—犬糸状虫症について—

#### 内 容

- 寄生状況
- 発育史
- 症 状
- 診 断
- 治療と予防